

## あとがき

大阪湾では、港湾の国際競争力の強化を図るため大阪湾諸港の一開港化が実施されるにいたった。同時にスーパー中枢港湾「阪神港」に向けて種々の施策が検討されている。このような状況下、今後に予想される大阪湾における船舶増加、交通輻輳に対し安全面から対応できるためには、大阪湾に入湾し、大阪湾内を航行し、湾内諸港に入出港し、大阪湾を出湾するまでの間を、陸上との情報連携により船舶の運航をサポートする体制づくりが望まれている。

折しも、大阪湾船舶運航サポート情報提供推進会議が発足するにいたったことは誠に時宜を得た取組である。この推進会議は、いわば大阪湾の将来に向けた安全運航と効率向上を目指した情報面からのサポート・システムを実現する運営の仕組み及び情報提供内容を具体的に検討する会議と認識している。

今後、議論をすすめるにあたり、水と安全はただとの認識を翻す発想と同様、これを機会に有用な情報はただではない事を認識する良いきっかけともなりえればと期待したい。それには、だれもが競って入手したくなる情報を創出し、それを提供できる体制づくりについて、今後、海事関係者が高い意識のもとに民を主体とし、官が支援する場に参集するという姿が望まれる。

これは、民間の手による民間のための体制づくりという、あまり経験のない例であり、だからこそ実現へのハードルも高いことも確かなようであるが、そこは関係者が力を合わせ、大阪湾を一体的にとらえ、安全運航と効率向上の将来を見据えた視座から、海事文化的慧眼をもって克服しなければならないように思える。

本年度は、全国に先駆けた取組みを大阪湾で実現するための出だしの第一歩でもある。ここまで関係者のご尽力のお陰をもって相応の成果が得られたと考えている。さらに、構想実現に向けた具体化への作業に際し、関係者各位のご協力をお願いしたい。

平成19年12月19日

大阪湾船舶運航サポート情報提供推進会議  
委員長 井上 欣三  
(神戸大学大学院海事科学研究科 教授)